

## —目次—

- 三谷恵子さんの死を悼む
- 2022 年度研究大会(2022 年 11 月 5 日, 6 日)自由論題報告募集
- 欧文機関誌編集委員会より
- 『ロシア・東欧研究』、『Japanese Slavic and East European Studies』投稿募集中
- 最近の理事会の議事録より

## 三谷恵子さんの死を悼む

まったく予想していなかった訃報だった。そのほんの数ヶ月前、私はロシア文学会会長職にあった三谷さんから、事務上の手違いの件でおわびの電話をもらっていた。歯切れ良い声が今も耳の奥に残っている。それまで私の知る三谷さんに、事務連絡の類の「失念」は考えられなかったので、不思議な気がした。もしかしたらあれは体調不全の兆候だったのかもしれない。

三谷さんとの出会いは90年代はじめにさかのぼる。スラブ言語学の分野に三谷恵子という天才的研究者が出現したという情報は、畑違いの私の耳にも入っていた。私が勤務先を京都大学教養部に転じて間もなくの頃だったと思う。ロシア文学会の研究報告案内にしたがって、思い切って会場をのぞいてみた。以前とちがって報告時間制限が厳しくなったころだった。三谷さんは息をつく間もないほどのスピードで、驚くほどの情報量の報告を時間内ぴったりに終えた。それには驚嘆したが、肝心の中身はさっぱりわからなかった。会場にいた同じ専門の人たちの反応をみて、これはたぶん素晴らしい報告だったのだろうと思った。それ以後は三谷さんの口頭報告はだいたいパスしたので、お仕事の中身は書かれたものを通して知りえたものに限られる。

JSSEES (スラブ東欧学会) の事務の現場は発足以来ずっと、教養部 (のちに総合人間学部) や文学部、人文研など、京都大学の部局のどこかにあった。本会は掲載論文等をすべて欧文としており、ロシア語のものも多かった。ときにはポーランド語やルーマニア語のものも掲載された。発足当初は、英語以外の外国語の製版作業は IBM 社の植字タイプライターを使い、会員ボランティアで行っていたため、会員の割合の多い関西に拠点を構える必要があったからである。やがて印刷会社が多言語対応製版ソフトを搭載でき、印刷専用フォントもそなえたアップル社の Mac コンピュータを導入したが、英語以外の論文の製版作業は同じく Mac を使って学会事務局が引き受けざるをえなかった。製版作業はルーティン・ワークだから次第に慣れてくるが、論文等の審査・査読は研究分野が分散していることもあり、編集委員会は毎回難問に見舞われた。だがやがてそこに救世主があらわれることになる。

三谷さんは、京都大学教養部が大学院の「人間・環境学研究所」と「総合人間学部」とに改組されたのち、1999年の山口巖先生退職後の後任として筑波大学から研究科に移籍されて来られた。それまで教養部に所属していたロシア語担当の3人はこの二つの組織のどこかにばらばらに配属されていた。しかし三谷さんはロシア語担当の要員にはカウントされていなかった (つまりロシア語教員は1名減員となった) ので、すぐ近くにおられたのに、学務上の付き合いがなく会話の機会はわりと少なかった。その代わりに JSSEES 役員として大いに協力していただき、2008年からは2年間編集委員長を引き受けていただいた。のちのちふと気づいたのだが、この間編集委員会の運営はまったく滞りがなく、理事会での報告にも疑義が出ることはなかった。JSSEES 理事会運営の歴史上きわめて珍しい事態

だと思ふ。これはひとえに三谷委員長の手腕のおかげであろう。

三谷さんがきわめて難しい病に冒されていて、何年かに一度は長期入院治療が必要なことは私の耳にも届いていた。京都大学にいらっしゃってからも長期入院されたことがあった。その頃に開かれた JSSEES 理事会が、思いのほか早く終了したことがあった。私は有志をつつて三谷さんをお見舞いすることにした。私たちが目にしたのは信じられないほど痩せてしまったお姿だった。それでも「見る影もなくやつれ果てた」ご様子はなく、言葉遣いにも力が感じられた。この病気の治療方法は近年かなり向上してきており、本格的治癒の可能性も見えてきそうだとのことだった。お見舞いに伺ったわたしたちのほうか、かえって勇気づけられるかたちになってしまった。三谷さんは 2013 年母校の東京大学へ戻られた。私は 2008 年の定年退職を機に東北へ居を変えたため、しばらく疎遠になった期間があった。

しかし今の今まで私はあの時の三谷さんのお言葉を信じてきた。だから訃報を訃報として受け止めることがどうにもできない。「安らかに」という言葉を口にする気にはどうしてもなれない。不完全な追悼文になってしまったが、どうかゆるしていただきたい。

木村 崇 (元 JSSEES 理事長)

# 2022 年度研究大会

## 11 月 5 日(土)、6 日(日)

### 新潟市内会場にて開催

#### (8 月に確定会場を発表します)

## 自由論題報告募集

#### 1. 共通論題報告テーマ：「ロシア－ウクライナ関係と世界」

2022 年度研究大会では、ロシア・ウクライナ関係に焦点を当てます。いうまでもなく、これは、現在全世界にとって喫緊の課題であり、この地域を研究する我々にとって研究者としてのアイデンティティーにもかかわる問題でもあります。今回の共通論題では、表象・歴史の観点からロシア・ウクライナ関係を考察するパネルと、現下の露ウ戦争に関するパネルを組織する予定です。パネリストは報告者のみならず、討論者、司会とも素晴らしい方々にお引き受けいただけることになっております。詳細についてはプログラムで発表いたしますが、ご期待ください。(企画委員長・大串敦)

\*2022 年度の企画委員会は、以下の会員で構成されています (五十音順)。

大串敦 (委員長)、岡部芳彦、服部倫卓、道上真有、村田真一

#### 2. 自由論題報告募集 (6 月 30 日締め切り)、若手会員には旅費等を支給

自由論題報告を希望される会員は、①氏名、②住所、③電話番号、④所属、⑤報告タイトル、⑥報告要旨 (約 400 字) を 6 月 30 日 (水) (必着) までに企画委員会・大串のメールアドレス (oatsushi@keio.jp) へメールでお知らせ下さい。なお、応募者多数の場合は、企画委員会にて人数調整を行う場合があります。また、上記のとおり、大会の時期・形態に変更があり得ることにご留意ください。

自由論題報告を行う若手会員に旅費等の助成を行っています。5 万円を上限として、交通費、宿泊費、懇親会費などが助成の対象となり、飛行機を利用したパック旅行も適用されます。院生はもとより、専任・常勤職を持たな

い40歳未満の若手会員も対象となります。また、2021年度以前に助成を受けた方も再応募は可能ですが、2022～2023年度の間利用は一回のみとなります。応募する方は、報告の採択後に、学会サイトの「研究大会」ページに記載の要領に従って、学会事務局会計担当宛て申し込んでください。多くの若手会員の皆様のご利用をお待ちしております。

## 欧文機関誌編集委員会より

(1)

本会欧文機関誌 Japanese Slavic and East European Studies の投稿規程・レフェリー規程について、編集委員会より軽微な改訂を提起し、3月7日の理事会で承認されました。以下の通りです。

### 欧文会誌 (JSEES) 投稿規程

改訂前	改訂後
2. 原稿の種類と形式	
<ul style="list-style-type: none"> <li>以下の原稿はすべてA4版用紙を使用する。上下・左右にそれぞれ30mmのマージンを取り、12ポイントのフォントを使用して、1ページ30行で書く。</li> </ul>	(削除:不要)
3. 使用言語	
<ul style="list-style-type: none"> <li>原則として英語およびロシア語とする。その他の欧文については編集委員会 (JSEES) と協議する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則として英語およびロシア語とする。その他の欧文については編集委員会 (JSEES) と協議する。</li> </ul>

理由: 英露以外の言語で審査・評価を行うのは現実的に言って不可能であるため。

### 会誌 (Japanese Slavic and East European Studies : 以下JSEESと略す) レフェリー規程

改訂前	改訂後
第2条	
5 論文の採否は、3名のレフェリーの審査結果をとりまとめて編集委員会 (JSEES) が作成した原案にもとづき、編集委員会 (JSEES) が決定する。	5 論文の採否は、 <u>原則として32名</u> のレフェリーの審査結果をとりまとめて編集委員会 (JSEES) が作成した原案にもとづき、編集委員会 (JSEES) が決定する。

理由: 同一領域で3名のレフェリーを指名するのは無理がある。また審査委員間で見解が割れた場合には編集委員会が最終的に決定すれば足りる。

会誌編集委員会規程・第5条により、「会誌編集に係る規程の改正は理事会の決定による」と定められています。したがって、本件は3月7日に施行されました。

(2)

一昨年度より、欧文会誌の環境に関わる改善を旨とした議論が理事会において進められております。その論点は

いくつかありますが、上記理事会においてその中でも具体的なものとして、機関誌名の改訂を提案いたしました。より広く投稿を促すことが可能となるような改称についての議論を進めております。編集委員会・理事会での議論がとりまとめられた暁には、総会にお諮りする所存です。会員皆様のご理解ご協力のほど何卒宜しくお願いいたします。

## 『ロシア・東欧研究』 『Japanese Slavic and East European Studies』 投稿募集中 締め切りは9月15日

『ロシア・東欧研究』、『Japanese Slavic and East European Studies (JSEES)』への論文、研究ノート、書評の原稿を募集しています。『Japanese Slavic and East European Studies』は欧文雑誌となっております。**応募締切りは9月15日、原稿提出期限は11月末日です。**研究大会における自由論題報告者のみならず、多くの会員の皆様からのご投稿をお待ちしております。また、投稿時点において40歳未満の方は、自動的に若手研究者奨励賞(賞状、副賞5万円)の選考対象となります。執筆要領については、学会HPまたは学会誌巻末の「投稿規程・執筆要領」をご覧ください。

『ロシア・東欧研究』、『Japanese Slavic and East European Studies』は2019年から刊行後すぐに電子ジャーナル化されることになりました。両誌とも創刊号から、日本最大級の総合電子ジャーナル・プラットフォーム J-STAGE にて電子アーカイブ化が完了しております。また、EBSCO社の学術論文データベースでも利用可能になる予定です(6月以降を予定)。

学会誌に掲載予定の書評は、学会ウェブサイトにて先行掲示を行うこととなりました。また、書評用の書籍は、事務局ではなく、編集委員会宛に直接ご送付いただきますようお願いいたします。ただし、書評として取り上げるかどうかは、編集委員会の判断によります。

### 問い合わせ・申込み先：各誌編集委員会

電子メール(『ロシア・東欧研究』担当) [jareesedboardjp@gmail.com](mailto:jareesedboardjp@gmail.com)  
(JSEES担当) [kumo@ier.hit-u.ac.jp](mailto:kumo@ier.hit-u.ac.jp)

## 最近の理事会の議事録より (学会HP「会議」掲載済み)

### 臨時理事会(緊急メール審議)

代表理事、副代表理事の発議により、臨時理事会(オンライン)を開催し、以下の審議事項について審議を行った。

審議事項1. 「ロシア軍によるウクライナ侵攻への抗議声明」について（審議期間2月28日から3月1日21時）

【審議結果】

今般のウクライナ情勢に鑑み、ロシア・東欧学会理事会として声明文を作成し、学会HPで発出することが承認された。声明文は2022年3月2日付で学会HPに掲載した。

審議事項2. JCREES 幹事会からの声明発出について（審議期間2月28日から3月3日12時）

【審議結果】

JCREES 幹事会代表幹事からの提案を受け、ロシア・東欧学会理事会で審議を行い、JCREES 幹事会からの声明文発出が承認された。声明文は2022年3月3日付 JCREES のHPに掲載された。

## 2021年度第2回ロシア・東欧学会理事会

2022年3月7日（月）17:30～19:30 オンライン

出席（敬称略）：安達祐子、五十嵐徳子、宇山智彦、大串敦、神原ゆうこ、鴻野わか菜、小森宏美、下斗米伸夫、田畑伸一郎、中村唯史、服部倫卓、浜由樹子、藤原克美、松里公孝、道上真有、ヨコタ村上孝之、志田仁完（会計担当）、立石洋子（Web/NL 担当）

欠席（委任状あり）：油本真理、乗松亨平、廣瀬陽子  
欠席：湯浅剛

司会：宇山智彦副代表理事

1. 五十嵐徳子代表理事の挨拶があった。

2. 学会誌の編集状況について、浜由樹子『ロシア・東欧研究』編集委員長、雲和広『JSEES』編集委員長から進捗状況について報告があった。あわせて、欧文会誌について EBSCO（学術論文オンライン・データベース）との契約について承認された（\*後日のメール審議にて、追加で和文会誌の契約も承認された）。

3. 雲和広『JSEES』編集委員長より、欧文会誌の検討事項について説明があり、以下の通り、決定した。

（1）規程の改訂（1. レフェリーを現行の3名より2名にする。2. 英語とロシア語以外の欧文で投稿する場合は協議するという条文を削除する、など。）

（2）紙媒体での発行を停止し、オンラインのみとすることについては継続審議とする。

（3）発行を維持するために掲載論文を確保することと関連して、研究大会での外国語企画について検討する。

（4）雑誌の名称変更については、理事会で継続審議し、総会に諮る。

### 4. 事務局関連

（1）入会者3名、休会者4名（うち1名は2020年度から休会継続）、3年会費未納2名、退会者3名について事務局より報告があり、承認された（3年会費未納者の一部について確認することになった→後日、会費納入の意思を確認）。

（2）2021年度予算/決算と2022年度予算について資料に基づき志田仁完会計担当から報告があった。田畑理事より、2021年度に実施したサマースクールに関わる予算執行の費目について質問があったが、原案通り承認された。

5. 2021 年度研究大会の決算収支報告が、一時退席中の 2021 年度大会組織委員長に代わり事務局から報告があり、了承された。

6. 2022 年度大会（11 月 5 日、6 日）

- (1) 道上真有大会組織委員長から会場の予約状況・今後の見通しについて報告があった。
- (2) テーマをウクライナ情勢関連にすること、企画委員長に大串敦理事、企画委員に服部倫卓理事が選任され、企画委員の追加については、若干の候補を示したうえで企画委員会に一任された。

7. 2022 年研究奨励賞の選考委員会について、安達祐子理事が委員長に、小森理事が委員に選任され、残りの委員については決まり次第、理事会に諮ることになった（\*後日のメール審議において、残りの委員として、青島陽子会員、大平陽一会員、小森田秋夫会員、花田智之会員が承認された。なお、委員は 5 名構成のため、小森理事は委員からはずれる）。

8. その他

- (1) JCREES 幹事会について、宇山副代表理事より報告があった。同幹事会の改革に伴い当会からの代表を追加する可能性について、執行部にて案を作成し、理事会に諮ることになった。
- (2) サマースクールについて、2022 年度以降、JCREES の主催とすることが承認された（\*サマースクール企画選考委員会には、神原ゆうこ理事が加わる）。
- (3) JCAS、JCASA について、担当の小森理事より報告があった。
- (4) その他
  - ・ウクライナ情勢に関する JCREES 幹事会および本理事会の声明について行われた、2 月 28 日付理事会緊急メール審議（2 件）について、小森事務局長から報告があった。
  - ・日本学術会議からの意見照会について、宇山副代表理事の補足も含めて説明があり、意見があれば、3 月 11 日までに事務局に伝える旨が確認された。
  - ・第 7 回国際北極研究シンポジウム（ISAR-7）について、後援することが了承された。

#### 新入会員（敬称略・ニューズレター前号以降）

no	氏名	所属	現在の具体的な研究テーマ	推薦者(署名順)	
1	木下勇人	第一中央汽船株式会社	ロシアの天然資源輸出、日本との関係	五十嵐徳子	宇山智彦
2	清沢紫織	日本学術振興会特別研究員 (PD)	言語学 (ベラルーシ)	野町素己	白山利信
3	西條結人	四国大学	キルギスにおける日本語教育	五十嵐徳子	宇山智彦

#### 《編集後記》

2022 年度研究大会の自由論題の募集が始まりました。皆様のご参加をお待ちしております。会場は 8 月にあらためてご連絡いたします。また『ロシア・東欧研究』、『Japanese Slavic and East European Studies』への投稿も募集中です。よろしくお願いたします。

ロシア・東欧学会ニュースレター 第43号(2022年5月発行)

《発行》ロシア・東欧学会事務局 立石洋子・小森宏美

郵便物送付先：〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1  
早稲田大学教育・総合科学学術院 小森宏美研究室気付  
E-mail : jarees\_office@yahoo.co.jp HP : <http://www.jarees.jp/>

ゆうちょ銀行(加入者名：ロシア・東欧学会)：  
郵便局での払込：00150-8-177731 他行からの送金：019店 当座預金 0177731

事務局会計担当(志田仁完) email: [kaikei@jarees.sakura.ne.jp](mailto:kaikei@jarees.sakura.ne.jp)  
学会支援機構(ロシア・東欧学会事務委託先) email: [jarees@asas-mail.jp](mailto:jarees@asas-mail.jp)  
よくあるご質問 <http://www.jarees.jp/faq/>